

ほうでえ～

ありゃ～のう

# 周防大島町の話題

約280人の方が来場されました



◀「近い将来大きな地震は必ず来る。タンスに押しつぶされないように、食器で足を切らないように、家具の転倒防止などの対策を」と瀧本先生

## 身を守る策を考え 事前に備えておく

1月28日、山口県大島防災センターにおいて、周防大島町防災講演会を開催しました。講師は山口大学大学院創成科学研究科准教授瀧本浩一先生で、「地域防災を考える」危険を知りどう備えるか?」をテーマに講演されました。

先生は、防災を実行するために「まずは自身にふりかかる危険を知ることが大切」であるとし、ハザードマップをトイレに貼るなど生活の一部に取り入れることを提案。また、家庭では気づかないことも、何人か集まれば地域の危険な場所にも気づくことから「ぜひ地域で話し合ってほしい」と話されました。また、必要とされる3日分の食料や水が常時あるように消費しながら買い足して備蓄しておく方法や、天気予報の警報予報の活用など、「地域で知恵を出し合って(共助)、各家庭の防災(自助)につなげてほしい」と呼びかけました。

## 2万個の餅が空に舞う

「周防大島まるかじり」が、1月22日、土居の日良居庁舎周辺で開催されました。

今回で12回目を迎えたこの日、お天気にも恵まれ、今年も町内外から約8千人(主催者発表)の人出で賑わいました。「島はひとつ」をスローガンに、今年度は郵便局を加えた農協、漁協、商工会、観光協会の5団体の共催で行われ、会場には柑橘や鮮魚の直売コーナーをはじめ、町内の飲食店などが軒を連ね、名物料理などを販売しました。警察、消防、自衛隊が行った車両展示は子どもたちに人気で、軽トラ市場も盛況でした。みかん鍋の振る舞いには長蛇の列ができていました。

## 沖家室島で物産展

たくさんの方で賑わいました



沖家室島で1月13日、沖家室島探索ふれあい物産展が開かれました。これは町の魅力を広く発信しようと、町と連携協定を結んでいる町内15の郵便局が沖家室自治会と共同で初めて開催したもので、地元の鮮魚や野菜をはじめ、茶がゆやいりこラーメンなど周防大島ならではの食べ物や特産品が販売されました。また、宮本常一先生誕生110周年を記念して、島内のゆかりの地を巡るスタンプラリーや写真展が開催されたほか、名物のみかん鍋も振る舞われ、会場は多くの方で賑わいました。



▲子どもも大人も楽しんだはしご車の体験搭乗

▶外国の方も初めての餅まきに挑戦しました

